

# スポーツと地域の共生

## ——ヤキュマチ越谷の事例から——

鈴木輝寛

本研究は、スポーツと地域社会がいかに共生し、相互に影響を与えながら発展していくのかを明らかにすることを目的とし、埼玉県越谷市で展開されている「野球の街越谷（以下、ヤキュマチ越谷）」の取り組みを事例として分析した。近年、少子化や地域コミュニティの希薄化により、少年野球をはじめとする地域スポーツは、担い手不足や活動継続の困難さといった課題に直面している。その一方で、スポーツには人々を結びつけ、地域の一体感や文化を育む力があり、地域社会の再構築に寄与する存在として再評価されている。

本研究ではまず、越谷市の地域特性やスポーツ環境を整理し、野球文化が地域に根付いてきた背景を明らかにした。次に、ヤキュマチ越谷の組織体制や具体的な活動内容を整理し、未経験者向けイベントや指導者講習、女子野球の普及など、多様な層を対象とした取り組みの特徴を検討した。加えて、実行委員長および中学校野球部顧問へのインタビュー調査を実施し、活動立ち上げの経緯、企業や大学との連携、活動を継続するための工夫、そして今後の課題について多角的に分析した。

調査の結果、ヤキュマチ越谷は、競技成績や勝利至上主義を前提とする従来型のスポーツ活動とは異なり、「既存チームに入れない、あるいは入らない子どもたちの受け皿」としての役割を重視していることが明らかになった。また、行政主導ではなく、市民が主体となって活動を運営している点が、柔軟な発想や現場に即した取り組みを可能にし、地域との継続的な関係構築につながっていることが示された。さらに、「ヤキュマチ」という言葉が地域内外に浸透することで、活動への共感を生み、人と人とを結びつける象徴的な役割を果たしていることも確認された。

以上より、ヤキュマチ越谷の事例は、地域スポーツが単なる競技活動にとどまらず、地域文化の継承や人間関係の再構築に寄与し得ることを示している。本研究は、市民主体による地域スポーツの可能性とその意義を明らかにし、今後の地域スポーツの在り方を考える上で一つのモデルケースを提示するものである。